

子育て支援

保健医療

現状と課題について

- ・ 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」は、実態としては「脅威」に入れるべき。
- ・ 「子どもの貧困率が高い」という指摘はいいが、子どもの貧困とは何か、議論が必要。
- ・ 地域の関係が薄れている中で、克服しようと様々な団体が活動をしているのが京都市。「弱み」を克服するため、今までの活動を充実させることも押さえるべき。
- ・ 子育ては、それだけで自己完結するのではなく、大人育ちや老人育ちとセットになったもの。多世代交流にポイントを置く。大事なキーワードになる。
- ・ ワーク・ライフ・バランスは、議論されているが、よいモデルがない。行政が良いロールモデルを提示し、実際に改善していける方向で子育て支援を進めていくべき。
- ・ 親、地域も加わって、自然体験活動を含めた様々な体験ができるように保障する。
- ・ 海外では、幼児教育や保育園のあり方は、ほとんどが幼保一体型で父親の関わりがとても多い。京都市の企業でそういうことに取り組んで、モデルができることを望む。
- ・ 小中学校間で大きな格差が生じていることを「脅威」として押さえておくべき。
- ・ 例えば、学区ごとの生活保護率やジニ係数などのデータにより、差がどうなっているかを見るのが大事。
- ・ 給食費を払えない児童の割合の変遷についてのデータは出せないか。

政策の基本方向について

- ・ 「世代間交流」「各団体の連携の強み」を今後も充実させるという基本方向を考える。
- ・ 不妊治療の支援に、もう少し力をいれてほしい。
- ・ 保健医療、子育て支援、学校教育、生涯学習の分野を通じて、性の学びを含めていく。
- ・ 高齢者福祉も子育て支援も、地域を一体的に考えられないか。
- ・ ワーク・ライフ・バランスも踏まえて、男女共同参画、「死」の問題、「生」の問題、地域の問題、これらはすこやか部会に連なっているテーマとして、基本方向を考えなければならない。

市民と行政の役割分担と共汗について

- ・ 団体が手をつなげるように情報を届けるのは、行政の大きな役割。
- ・ 病児保育については、そこに地域や色々な団体が絡む、そういうネットワークもあるので、普及させれば女性の働きやすさにもつながる。
- ・ 子育て支援に、育児経験のある人がマッチすると、「こんなことは心配しなくていいんだよ。」と伝えられる。育児の継承が大事。
- ・ 男女共同参画について、理想と現状とのギャップを埋めていくような施策をいかに進めていくか、京都市民がどれだけ意識をもてるか。

10年後に目指すべき姿について

- ・ 子どものために地域が連携していること、男女共同参画社会にあって、子どもを生み育て働くことに喜びを感じ、そこに子どもが育つ環境が、病児保育、幼保一元化等も含めて出来上がっていることが、10年後に目指すべき姿である。
- ・ 子どもを共に育む市民憲章の実現は、10年後に目指すべき姿で落としてはいけない。

- ・ がん検診受診率について、乳がんについて増加していることが「機会」に挙げられているが、他のがんも含め、がん検診全体の底上げを図る必要から「脅威」へ入れるべき。
- ・ ワクチン接種率の向上を図るべきことを「弱み」に入れるべき。
- ・ 健康とは何なのかを書いておくべき。
- ・ 健康寿命の延伸だけが目標ではなく、いまひとつ踏み込んで、認知症対策についても見逃しはできない。
- ・ 医師の数は全国トップで京都の「強み」だが、これをどう生かすかが課題。
- ・ 「予防医学」について、一般に理解できるよう発信することにより、子どもの自然治癒力を育てることを促し病気にならなくて済む、そういう意識が高くなることを望む。
- ・ 子どもの看護休暇が法制化されたが、利用されない状況を何とかしなければならない。
- ・ 病児保育についても保健医療か子育て支援のどちらかで取り上げるべき
- ・ リハビリテーションと緩和ケアやホスピスなどパリアティブケアの記述は、絶対必要。
- ・ 口腔ケアについても入れるべき。
- ・ 3歳児までの医療費無料について、腕白な小学生にまで適用できないか。
- ・ 医療に安易にかかるのではなく、必要な時に必要なだけかかるということが必要。
- ・ 長寿社会を考えると、介護予防というキーワードも必要。
- ・ 「観光客数が多く、他都市と比較すると、食中毒患者が多い」とあるが、逆に衛生管理が悪いと受け取れてしまう。表現を変えるべき。
- ・ 人生50年時代から急激に80年時代を迎え、「生」と「死」の間に「老」と「病」の問題が割り込んできたことにより、対策について「死」を軸に考えなくなった。子育て支援・保健医療とも、現状と課題の中で「生死」の問題を議論すべき。

- ・ 今後、高齢化すればするほど、がん疾患は増えてくる。がん予防、検診の問題、なったときの対応などについての情報提供をしっかりとっていくことが必要。
- ・ 国際観光都市であるために外来感染症が懸念されるということだが、強調せず、感染症一般にしっかりと対応するという方向性を入れる。
- ・ がん検診受診率が先進国で極端な開きがあることの分析が、対策を立てる上で大事。
- ・ 自殺の問題について、すべての支援が重層的に対応できるよう対策を考えるべき。
- ・ 自分の体を自分でチェックし管理するという意識付けは強調すべき。

- ・ 健康に関しては、一人ひとりが自覚して自分で取り組む、それは自分のためであるということを強調することが必要。
- ・ 食育は大切で、京都らしい取組としても必要。
- ・ 特定健診やがん検診について、行政が住民にしっかりと働きかけると受診率は上がる。行政の役割を入れるべき。